

令和4年度 全国学力・学習状況調査における勝山市の結果について

勝山市教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査（小学校6年生、中学校3年生対象・4月実施）について、勝山市の児童生徒の結果をお知らせします。

学校と勝山市教育委員会では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ICT機器を効果的かつ効率的に活用し、「楽しくわかる授業」の実践に努めています。また、個に応じた丁寧な支援を進めています。その中で、「生きる力」を育むために、引き続き家庭や地域と連携した教育活動の推進に努力してまいります。そのために、本調査は学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、その結果を有効に活用していきたいと思えます。

また、本調査からは、児童生徒の学習状況や生活の様子についても振り返る材料を得ることができます。学力との関連性など、よりよい生活リズムの習慣化に向けて、ご家庭でもぜひ話題にしてください。

【1】勝山市の平均正答率について

本年度の調査は、「小学校 国語・算数・理科」「中学校 国語・数学・理科」において実施されました。勝山市全体の平均正答率を、福井県および全国の平均正答率とのポイント差(点数差)により比較します。
「高い」>3 3≥「やや高い」>1 1≥「同程度」≥-1 -1>「やや低い」≥-3 -3>「低い」

	教科名	県と比較して	国と比較して
小学校	国語	同程度	高い
	算数	同程度	高い
	理科	高い	高い
中学校	国語	やや低い	同程度
	数学	同程度	高い
	理科	同程度	高い

【2】各教科の概要について

<小学校>

	成果	課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いの中で、話し言葉と書き言葉との違いを理解したり、必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えたりすること ○人物像や物語の全体像を具体的に想像すること ○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと 	<ul style="list-style-type: none"> ▲文章に対する感想や意見の伝え合いの中で、よいところを見つけること ▲学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと（無回答の児童がいる）

算 数	<p>○21個入り1470円のカップケーキを基に、7個分のカップケーキの値段を除法で求めることができる理由を記述すること</p> <p>○果汁25%含まれている飲み物の量を基にしたときの果汁の量の割合を分数で表すこと</p> <p>○1年生と6年生で遊びを決める際に、1年生の希望をよりかなえるための加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答え方を記述すること</p> <p>○示されたプログラムでかくことができる図形が平行四辺形であることを、図形を構成する要素に着目し判断すること</p>	<p>▲示された場面（果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたとき）のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解すること</p> <p>▲示されたプログラムについて、正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、正しいプログラムに書き直すこと</p>
理 科	<p>○提示された情報を、複数の視点で分析して、育ち方と主な食べ物の特徴からカブトムシは二次元の表のどこにあてはまるのかを選択すること</p> <p>○一定量の液体の体積を適切に図るための器具の名称を書くこと（メスシリンダー）</p> <p>○鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、実験を継続して同じ条件で行うために方法を検討して、新たに追加した手順を書くこと</p> <p>○冬の天気と気温の変化を基に、問題の視点で分析して、解釈し、まとめを選ぶこと</p> <p>○夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶこと</p> <p>○鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、空気中の水蒸気に変化したものであることを書くこと</p>	<p>▲凍った水溶液について、試してみたいことを基に、他者の気づきの視点で分析して、見いだされた問題を記述すること</p> <p>▲缶の色による水の温度変化の結果を基に、問題の視点で分析し、解釈し、理由を書くこと</p>

【国語】

○話し合いの様子の中で「きかい」という言葉について、話し言葉と書き言葉の違いを理解し正しく伝えるために必要な説明を選択することと、質問した内容から聞きたいことの内容を捉えることが十分にできていました。また、物語から伝わってくることを考え、想像したり表現の効果を考えたりしながら読み取ることもできていました。

△文章に対する感想や意見の伝え合いの中で、よいところを見つけることができる児童は県および全国平均に比べ1割も高い結果となりましたが、5割程度の正答率でした。今後も伝え合いの中で深め合う活動を様々な教科の中で繰り返し行い、さらに豊かな表現力を身に付けていくことが必要です。

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく書くことは、3つの出題の中で2つは7割を超える正答率で県および全国平均より上回りましたが、3題ともに4～6%程度無回答児童がいました。日頃の積み重ねが大きく表れる問題ですので、こつこつと取り組む習慣を身に付けることが大切です。

【算数】

○算数では、21個入り（7個×3列）1470円のカップケーキの7個分の値段を求める場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題や加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述する問題など、考えたことやまとめたことを記述する分野は8割程度の高い正答率でした。百分率で表された割合を分数で表す問題もよく理解できていました。1年生と6年生の交流会での遊びを決める際に、1年生の希望をよりかなえてあげるために、1年生の希望のポイント数を2倍にする方法の求め方を式や言葉を使って答える問題は、県および全国平均と比べて大変よくできました。正三角形やひし形の意味や性質、構成の仕方についてもよく理解できています。

△示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことに課題が見られました。果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときに、含まれている果汁の割合（飲み物の濃さ）が変わらないという生活体験と文章になっている問題とが結びつかない児童が多かったと考えられます。日頃から自分事として捉えることを重視した学習支援を行っていきます。正三角形を描くことができるプログラムを正しく書き直すことに課題が見られました。過程を見直し、間違いに気づき、修正する能力を高めるための学習にも力を入れていきます。

【理科】

○理科は全般的によくできていました。一定量の液体を適切にはかりとる実験器具の名称を理解していることや冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶことは9割以上の正答率でした。昆虫のグループ分けの問題では、指示された情報を、複数の視点で分析して、解釈することは、県および全国平均よりかなり高い正答率でした。日光を重ねて的に当てると温度は高くなることを確認する実験では、実験を継続して同じ条件で行うために、日光の位置が変化していることを手順に加える問題がよくできていました。日頃実験に主体的に取り組んでいる児童が多いことが伺えます。

△記述式の問題の正答率が5割以下となっており、文章で答えることが苦手な児童が多いと言えます。紅茶や水に、水で作った氷と砂糖水で作った氷を浮かべたときに砂糖水で作った氷が沈んだことから見いだせる問題を文章化することや、黒色の缶が一番水温が高くなるとまとめた理由を結果を基に記述することに課題がありました。何を答えればよいのか、問われている内容を正確に捉えるためには、日頃より文章を読む力を付けていく必要があります。教科書の文章だけでなく、進んで本や新聞を読む習慣を身に付けていけるとよいです。

<中学校>

	成 果	課 題
国	○行書で最初に書いた文字の漢字のバランスについて適切に説明しているものを選択す	▲使われている表現の技法の名称を書き、同じ技法が使われているものを選択すること

語	<p>ること</p> <p>○行書で書き直した文字の「と」の書き方について適切に説明しているものを選択すること</p>	<p>▲話の展開に沿って、登場人物の行動や心情を描写を基に捉え、並べ替えること</p> <p>▲行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択すること</p>
数学	<p>○42を素因数分解し、素数の積で表すこと</p> <p>○簡単な連立二元一次方程式を解くこと</p> <p>○容器のふたを投げたときに下向きになる相対度数を表や折れ線グラフに表したものをもとに確率を選択すること</p>	<p>▲ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選択すること</p> <p>▲yがxの一次関数で、変化の割合が2である関係を表している表を選択すること</p> <p>▲二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフから目標300kg削減を達成するまでの日数を求める方法を説明すること</p> <p>▲証明された以外の事柄を、筋道を立てて、事柄が成り立つ理由を説明すること</p>
理科	<p>○タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組み合わせを選択すること</p> <p>○分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表すこと</p> <p>○ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明すること</p>	<p>▲日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を理解すること</p> <p>▲気象情報の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて適切な天気図を選択すること</p> <p>▲上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断すること</p> <p>▲水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおもとを分析して解釈すること</p> <p>▲「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択すること</p> <p>▲東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを考えること</p>

【国語】

○漢字の行書について、行書の読みやすい書き方や行書に調和する仮名の書き方についてしっかり理解できています。漢字については、毎年高い正答率ではありますが、無回答の割合も他の問題に比べ高い傾向にあるので、小学校同様、日々の積み重ねを大切にしていけるとよいです。

▲文学的文章の中で使われている「陽炎みたいに揺らめきながら」という表現技法の名称（比喩）と、それが使われてる文章を選択することに課題が見られました。知識としての定着を図るためには、具体的に様々な表現の技法を使った文章を書くことが大切であると言えます。また、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることにも課題がありました。今後、文学的文章を読み、考えたことを記録したり伝え合ったりする活動を充実させていく必要があります。行書の書き方については、理解できていたものの、実際の作品を見て、特徴について正しく述べているものを選

択する問題の正答率が低い結果となりました。

【数学】

○素因数分解をして自然数を素数の積で表すことや、連立二元一次方程式を解くことがよくできており、基本的な知識や技能は確実に身に付いている生徒が多いと言えます。また、多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味についてよく理解できていました。

▲予想したことがいつでも成り立つかどうかを示すために必要な反例を正確に理解できていないと言えます。一次関数の変化の割合についても半数が正しく理解できていないことがわかります。基本的な問題を確実に解くことができるようにしておくことはとても重要ですので、しっかり見直しをしておく機会にできるとよいです。証明は、ある人の考えが成り立つことを説明する問題でしたが、正答率は最も低い結果となりました。全部で5題あった記述式の問題の正答率が高くなかったことは大きな課題と言えますが、5問中4問も無回答の割合が1割を超えたという事実をしっかり受け止めていかなければいけません。やはり、自分の考えを文章にまとめる力は重要ですので、個の思考を表現する時間を十分確保し、さらには共有する活動を通して、文章を練り直しよりよいものにする時間も大切にしていきます。

【理科】

○日頃から条件制御の意味を正しく理解し、適切に実験が行われていることがわかります。原子や分子の意味を、モデルを用いてイメージしながら学習することで、化学反応式を正確に理解することにつながっていると言えます。授業での取組が結果として表れています。節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈することがしっかりできていました。

▲静電気の意味そのものを勘違いして捉えている生徒が多いという結果となりました。帯電と放電のどちらを問われているかを正しく読み取ることができなかつたと予想できます。気象の問題では、観測データから天気図を予想することや上空での雲のでき方について地上で観測データを用いて推論した考察は妥当でないと感じることに課題が見られました。たくさんの資料やデータの中から根拠となるものを整理して選ぶ力を高めていけるとよいです。ばねが縮む長さは加える力の大きさに比例するかという課題に正対した考察を行うために、結果を適切に処理したグラフをかくことに課題がありました。日頃の実験結果をまとめる作業を大切に、思考力や表現力を高めていけるとよいです。地層の傾きを問う問題では、露頭の見え方と方角を正確に把握できていなかったと言えます。時間的・空間的な視点で考え、複数の資料から考察することに力を入れていきます。

【3】児童生徒質問紙について

(1)「良好な点」と「改善したい点」について

生活態度面や全般的な学習態度面の調査結果について、「良好な点」として、一昨年度と比較して改善が見られるものや県・全国の平均値と比べて明らかに上回ったものを中心に、「改善したい点」として、一昨年度と比較してよくない結果となったものや県・全国の平均値と比べて明らかに下回ったものを中心にまとめました。

<小学校>

良好な点	改善したい点
<p>○「自分にはよいところがある」と答えた児童の割合が大幅に増加している。(R3 79.5% → R4 90.2%) また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と感じている児童の割合は、県や全国平均と比べ高い。 (市 94.2% 県 90.7% 国 87.1%)</p> <p>○「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童の割合が増加している。(R3 80.6% → R4 85.0%)</p> <p>○「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と答えた児童の割合は、県や全国平均と比べ高い。 (市 92.9% 県 90.6% 国 87.2%)</p> <p>○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談ができる」と答えた児童の割合は、県や全国平均と比べ高い。(市 71.9% 県 67.5% 国 68.1%)</p> <p>○「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と答えた児童の割合は、大幅に増加している。 (R3 74.5% → R4 86.3%)</p> <p>○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と答えた児童の割合が増加している。(R3 68.3% → R4 72.5%)</p> <p>○「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と答えた児童の割合は、県や全国平均と比べ高い。 (行事参加：市 83.0% 県 69.7% 国 52.7%) (何をすべき：市 70.3% 県 54.9% 国 51.3%)</p> <p>○「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っているか」の質問に、ほぼ毎日もしくは週3回以上使っているを選択した児童の割合が、昨年度より増加している。また、県や全国平均に比べ、かなり高い。 (R3 63.3% → R4 79.2%) (市 79.2% 県 58.6% 国 58.2%)</p> <p>○「学校の授業中に自分で調べる場面」や「学級の友達と意見交換をする場面」「自分の考えをまとめ、発表する場面」すべてにおいて、週1回以上使用していると答えた児童の割合は、県や全国平均に比べ、かなり高い。 (調べる：市 91.5% 県 74.3% 国 76.1%) (意見交換：市 68.0% 県 58.0% 国 47.4%) (発表：市 64.7% 県 43.6% 国 45.2%)</p> <p>○「5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、</p>	<p>▲寝る時間起きる時間が決まっている児童の割合が減少している。 (寝る R3 83.9% → R4 78.4%) (起きる R3 92.8% → R4 90.2%)</p> <p>▲「学校の授業時間以外に、普段1日あたりどれくらいの時間読書をするか」の質問に「全くしない」と答えた児童の割合が、昨年より大幅に増加している。 (R3 23.9% → R4 32.0%)</p>

<p>自分から取り組んでいた」と答えた児童の割合が増加している。 (R3 77.2% → R4 82.4%)</p> <p>○「算数の勉強は大切だと思う」と答えた児童の割合が増加している。 (R3 93.3% → R4 97.4%)</p> <p>○理科の勉強や授業についての質問は、すべての項目で肯定的な回答をした児童の割合が、県や全国と比べ、かなり高い。</p> <p>(生活の中で活用：市 89.1% 県 71.3% 国 69.7%) (社会で役立つ：市 90.2% 県 81.3% 国 77.2%) (理科に関する仕事：市 40.5% 県 26.6% 国 26.6%) (自分の予想をもとに：市 88.3% 県 80.7% 国 78.0%) (振り返って考える：市 83.0% 県 70.1% 国 72.2%)</p>	
---	--

- 「自分によいところがある」と感じている児童の割合が増加したのは、学校ごとに個を大切にした支援をしている成果だと言えます。また、ポジティブ教育を導入し、自己肯定感を高める活動を多く取り入れていることも大きく関わっていると思われます。「先生は、あななのよいところを認めてくれている」の結果にも、1人1人と向き合う時間を大切にしていることが伺えます。引き続き、お子様1人1人の成長を丁寧に見取り、ご家庭にお伝えしていきます。
- 将来の夢を明確にでき、最後までやり遂げようとする力を付けていくことは、目標に向かって突き進むことができる児童であり、学習意欲向上にも大きく関わってきます。たくさんの方にチャレンジするチャンスを与えることで、さらに児童の可能性を広げていけるよう支援していきます。
- 安心した学校生活を送るためには、「居場所」が鍵になります。いつでも相談できる教職員がいることで、1人で抱え込まず、次への第一歩を踏み出しやすくなると考えます。もちろん相談できる友達も大切です。学校が安心して生活を送ることができる場所として、学校運営、学級経営に努めてまいります。ご家庭でも、お子さまとの会話から学校での様子を把握し、気になることがありましたら、すぐに学校に連絡いただき、安心できる居場所づくりにご協力ください。
- 自ら課題を見出し、調べ、考え、まとめ、伝え、さらに次の課題に挑戦していくESDを中心とした学習活動は、個の力を伸ばし、互いの力を高め合うことにつながっています。それらの学習を通して、異なる意見を交流させることが楽しいと感じたり、計画的に自主的に学ぶ力が身に付いたりしていきます。昨年度から本格的に活用しているタブレットについても、個別最適な学びや協働的な学びの一助になっていることは間違いありません。今後も、児童がこれからの社会を生き抜くために必要な力を身に付けていけるように支援していきます。
- 地域の行事に積極的に参加したり、地域をよくするためにできることを考えたりする児童の割合は、県や全国平均と比べてもかなり高くなっています。ふるさと教育と環境教育を柱にしたESDの中で、勝山の魅力を探り、発信していく活動を積み重ねてきた成果だと言えます。将来もふるさとを愛する気持ちを持ち続け、行動できる人材の育成に、さらに努めてまいります。
- 県および全国平均よりともに高い正答率であった理科についての質問項目を見ると、すべて肯定的な回答をした児童の割合が高くなっています。“好きこそものの上手なれ”という言葉通り、学習においても“好き”ということが、学ぶ意欲の向上に大きく関わっていると言えます。すべての教科において、児童の“好き”につながるように授業展開を工夫し、支援をしていきます。

○▲「朝食を、毎日食べている」児童の割合は、昨年度より増加し、県や全国と比べても高い割合であったことは、ご家庭のご理解とご協力のおかげです。ありがとうございます。しかし、「毎日、同じくらいの時間に寝ている」「毎日、同じくらいの時間に起きている」児童の割合は、昨年度の結果、県や全国の平均と比べ、減少しています。家庭学習を夜遅くまでがんばっているとかテレビゲームやタブレットを使用していて遅くなるなど、要因はいろいろあると思いますが、生活リズムが崩れると、授業中に集中できなくなったり、やる気が出てこなかったりします。まずは、やるべきことの優先順位を決め、時間を効率よく使えることを考えてみましょう。その上で、生活リズムが安定してくると、効率のよい学習になり、学力アップにもつながると思います。テレビゲームやタブレットなど、好きなことをやっていけないのではなく、自分で自分をコントロールしながら、やるべき時間を考えることができる力を身に付けていってください。

▲昨年度、平日、学校の授業時間以外では全く読書をしらないという児童は4人に1人いたのが、3人に1人という割合に増加しました。同じく新聞を全く読まない児童の割合も昨年同様2人に1人います。今後、文章を読む習慣は、語彙を増やし、すべての教科で問題文を理解する力を高めることにつながります。興味がある本、記事から少しずつでよいので、読む習慣を身に付けていけるとよいです。

<中学校>

良好な点	改善したい点
<p>○「学校に行くのが楽しい」と感じている生徒の割合は、やや増加している。 (R3 87.3% → R4 89.0%)</p>	<p>▲学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと感じている生徒の割合は、減少している。 (R3 91.7% → R4 87.7%)</p>
<p>○「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と感じている生徒の割合は、増加している。 (R3 71.8% → R4 79.2%)</p>	<p>▲「読書が好きですか。」(今年度からの質問)に肯定的な回答をした生徒の割合は、県や全国平均に比べ低い。 (市 58.2% 県 69.0% 国 68.2%)</p>
<p>○「友達と協力するのは楽しい」と感じている生徒の割合は、増加している。 (R3 92.0% → R4 95.1%)</p>	<p>▲地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある生徒の割合が、減少している。 (R3 55.2% → R4 47.8%)</p>
<p>○学校の授業時間以外に普段(平日)1日当たり1時間以上勉強している生徒の割合は、県や全国平均に比べ高い。 (市 74.8% 県 67.1% 国 68.5%)</p>	<p>▲「理科の勉強が好き」と回答した生徒の割合は、県や全国平均と比べ低い。 (市 25.8% 県 36.9% 国 32.2%)</p>
<p>○学校が休みの日に1日当たり2時間以上勉強している生徒の割合は、県や全国平均に比べ高い。 (市 58.9% 県 45.5% 国 44.9%)</p>	<p>▲理科の授業で、観察や実験の結果をもと考察している生徒の割合は、県や全国平均と比べ低い。 (市 31.3% 県 36.2% 国 35.8%)</p>
<p>○地域の行事に参加している生徒の割合は、県や全国平均と比べ高い。 (市 66.2% 県 54.4% 国 40.0%)</p>	<p>▲理科の授業で、観察や実験の結果をもと考察している生徒の割合は、県や全国平均と比べ低い。 (市 31.3% 県 36.2% 国 35.8%)</p>
<p>○学級では、学校生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると答えた生徒の割合は、増加している。 (R3 75.2% → R4 81.6%)</p>	<p>▲理科の授業で、観察や実験の結果をもと考察している生徒の割合は、県や全国平均と比べ低い。 (市 31.3% 県 36.2% 国 35.8%)</p>
<p>○学級での話し合いを生かして、自分が努力すべきこと</p>	

<p>を決めて取り組んでいる生徒の割合は、増加している。 (R3 74.0% → R4 82.2%)</p> <p>○3教科ともに文章で書く問題や説明を書く問題について最後まで書こうと努力したと答えた生徒は、県や全国平均と比べ高い。</p> <p>(国：市 87.7% 県 85.9% 国 77.3%) (数：市 67.1% 県 62.9% 国 53.4%) (理：市 83.5% 県 81.0% 国 74.0%)</p>	
--	--

○学校に行くのが楽しいと感じる生徒が多いことは、学校が安心できる場所になっていること、学習や活動等に明確な目標をもって望むことができていること、人間関係づくりがうまくいっていることが伺えます。引き続き、学校生活における環境の充実に努めてまいります。

○自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答する生徒が増加しているのは、各学校において複数の生徒による意見交流や協働的な学びを主体とした授業づくりに力を入れていることが要因だと考えられます。また、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めることができていると感じる生徒の割合が増えていることにも共通して言えることです。自分の意見や考えをしっかりと持ち、友達の考えと比べたり、取り入れたりしながら、より深めていく学習を、さらに充実させていきます。

○学校以外での学習の時間は、昨年度、県や全国平均と比べ低かったのが、今回は休日において上回る結果となりました。また、昨年度より学習に費やす時間が増えているという結果となったことは、学習の習慣が身に付いているということです。今後も生徒が主体的に学習するための支援に力を入れていきます。

○文章で書く問題、説明する問題に最後まで書こうと努力した生徒の割合が高かったのは、日頃から自分の考えをまとめ、発信する活動に力を入れてきた成果であると考えられます。自分の言葉で話すことや考えたことを整理してまとめることは、生徒一人一人の力となり、自信となります。タブレットを効果的に活用したプレゼン力の向上にも努めてまいります。

○▲地域の行事に進んで参加する生徒の割合は、県や全国平均に比べて大幅に高い結果ですが、昨年度に比べるとやや低下しています。地域や社会をよくするために何をすべきか考える生徒の割合は、昨年度に比べて低下しました。ESDの実践の中であたり前に行っていることですが、さらに発展的な課題に取り組む中で、達成感を味わうことができる取組を推進していきたいと思えます。

▲生徒の回答からタブレットを使う頻度は上がっているとわかるものの、効果的に使うことができているか、生徒が役に立っていると感じているかを再度見つめなおす必要があると考えます。よりよく学ぶためのタブレットの有効性を感じられるように支援していきます。

▲今回の学力調査を通して、明確になったことが、理科好きであった小学生が中学生になると理科離れや理科嫌いになるということです。小学校の理科で得られるであろう「発見」や「驚き」を中学校の理科でも実感することができるように、実験や観察を大事にし、そこから自分の経験を結びつけることができる授業を充実させていきます。

(2) 正答率との間に関連が見られた質問項目について

ここ数年の分析と今年度、特に気になった点から、教科の正答率と相関関係が見られた項目について

て、主なものを8例まとめました。ぜひ、ご家庭でも話題にとりあげてください。

なお、右側の欄内のポイント数は、各項目について「している」「当てはまる」と答えた児童生徒と、「全くしていない」「当てはまらない」と答えた児童生徒との平均正答率のおおよその差を、教科ごとに示したものです。

項 目	教科ごとの正答率の差	
起床時刻が定まっている児童生徒は正答率が高い。 7回連続同じ傾向 理科は今年度のみ	小学国語	29ポイント差
	小学算数	39 "
	小学理科	39 "
	中学国語	8 "
	中学数学	12 "
	中学理科	5 "
家で、自分で計画を立てて勉強している児童生徒は、正答率が高い。 4回連続同じ傾向	小学国語	5ポイント差
	小学算数	2 "
	中学国語	14 "
	中学数学	18 "
前学年までに受けた授業において、うまく伝わるように、理由を示したり、資料や文章、話の組み立てを工夫したりしていると答えている児童生徒は、正答率が高い。 6回連続同じ傾向	小学国語	10ポイント差
	小学算数	8 "
	中学国語	15 "
	中学数学	27 "
「前学年までに受けた授業において、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と答えている児童生徒は、正答率が高い。 3回連続同じ傾向	小学国語	9ポイント差
	小学算数	20 "
	中学国語	24 "
	中学数学	33 "
「前学年までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた」と答えている児童生徒は、正答率が高い。 2年連続同じ傾向	小学国語	16ポイント差
	小学算数	1 "
	中学国語	13 "
	中学数学	36 "
自分と違う意見について考えるのは楽しいと感じている児童生徒は、正答率が高い。 2年連続同じ傾向	小学国語	20ポイント差
	小学算数	3 "
	中学国語	11 "
	中学数学	20 "
学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると答えた児童生徒は、正答率が高い 2年連続同じ傾向	小学国語	7ポイント差
	小学算数	15 "
	中学国語	54 "
	中学数学	57 "
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると答える児童生徒は、正答率が高い。 2年連続同じ傾向	小学国語	1ポイント差
	小学算数	6 "
	中学国語	18 "
	中学数学	14 "

学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると答えた児童生徒は、正答率が高い。 2年連続同じ傾向	小学国語 5ポイント差 小学算数 3 〃 中学国語 2 2 〃 中学数学 2 0 〃
読書が好きな児童生徒は、正答率が高い。 今年度からの質問	小学国語 1 7ポイント差 小学算数 1 3 〃 小学理科 1 2 〃 中学国語 1 〃 中学数学 1 〃 中学理科 7 〃
「〇〇の勉強は好きだ」と答えている児童生徒は、正答率が高い。 国語と算数・数学は3回連続同じ傾向 理科は今年度のみ	小学国語 1 3ポイント 小学算数 2 0 〃 小学理科 6 〃 中学国語 4 〃 中学数学 1 9 〃 中学理科 1 4 〃
算数・数学や理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えていると答えた児童生徒は、正答率が高い。 算数・数学は2年連続同じ傾向	小学算数 3ポイント差 小学理科 1 〃 中学数学 2 0 〃 中学理科 1 2 〃

○基本的な生活習慣に関する結果を見ると、特に、起床時刻については、7回連続で相関関係が見られました。中学生においては、就寝時刻が決まっている人も2年連続で、正答率が高いという結果が出ています。朝ごはんを毎日食べることについては、正答率の高さとの明らかな関係が見られませんでした。食べると食べないとでは、医学的にも脳の活性に差があるとのこと。午前中の授業を集中して、効率よく学習するためにも朝ごはんは欠かせないと言えます。家庭において自分で計画を立て見直しをもって学習に取り組むことは、規則正しい生活習慣に直結します。自分に合う生活習慣が身に付くまでは、お子さんと一緒に作ったスケジュールを見えるところに貼っておき、時計を見て行動できるように声かけするなどの工夫をしてみましょう。

○好きな教科の正答率が高いという結果は、毎年変わらず見られます。好きだから一生懸命授業に取り組み、自分で進んで学習します。そうすることでより多くの知識や技能が身に付いていきます。わからないこと疑問に思ったことは、進んで聞いたり調べたりして、1つ1つ解決していけるとよいです。また、わからないときにすぐにあきらめず、粘り強く取り組み、“わかった！”を増やしていけると自信につながります。

○各教科や総合的な学習の時間において、課題解決に向けて自分で考えたことや調べたことを、うまく伝えるようにまとめたり、発表したりする活動を主体的に行うことができている児童生徒は、学力が定着していることがわかります。また、自分の考えをしっかりと持ち、友達の意見と比較したりよい考えを取り入れたりしながら、深めることができる児童生徒も、学力の向上につながっていると考えられます。今後は、さらにタブレットを上手に活用しながら、児童生徒がタブレットの有意性を感じられるような支援を行ってまいります。そして、個別最適な学びと協働的な学びの充実により、自分たちで学びを展

開していくことができるよう、児童生徒を支援していきます。

【4】今後の方針について

(1) 学校で取り組むこと

※以下のもの以外にも、各校の方針があります。

<ア>安心できる居場所づくりと絆づくり

全教職員が、児童・生徒にとって学校、学級が安心できる場所になるように努めます。児童・生徒は、お互いのよいところを認め合い、思いやりをもって支えあえる関係を作っていけるよう支援していきます。学校、学級の実態に応じて、自己有用感や学級への適応感を高めるための取り組みを適宜行っていきます。不安や困ったことがある児童生徒に対しては、ご家庭との連携を密にして、気持ちに寄り添った支援をしていきます。また、児童生徒のやる気を大切にしていきます。自分たちで考えたい、変えてみたい、挑戦してみたいといった前向きな活動をどんどん行っていきます。そして、自分たちで達成できたときの喜びを、学校、学級全員で分かち合えるとよいと考えます。児童生徒が毎日笑顔で楽しく過ごせるよう努めてまいります。

<イ>『楽しく、わかる授業』の充実

学力の向上には、児童生徒の「学びたい」という意欲が大きく関わってきます。やり方を聞いて、やってみて理解するといった学習では、どこかでつまづいてしまうとあきらめることにつながります。そこで、「学びたい」を大切に授業を行うために、自ら課題を設定し、自分で解決できる力を高めていきます。普段の生活の中での「なぜ？」を大切にしたり、自分の経験と結び付けたりしながら、興味関心を高め、次の学びへの意欲を高めていく工夫を行っていきます。その結果、「もっと学びたい」につながる「楽しく、わかる授業」を展開していけるよう、教員が支援していきます。使い慣れてきたタブレットをさらに有効に使うことができるよう、教員がさらに研修を積み重ね、児童生徒にとって有用なツールになるよう進めていきます。

(2) ご家庭にお願いしたいこと

<ア>規則正しい生活習慣の定着

昨年度もお願いをしましたが、規則正しい生活習慣が身に付いている児童生徒は、依然として多くないようです。発達段階に合わせて、保護者の皆様のご協力を得ながら定着を図っていき、いずれは自分の判断で、寝る時間起きる時間を決めて、よりよい学校生活を送るためにはどうするとよいか決めることができるようになってほしいと思います。身に付いたと思っても、週末や長期休業で乱れることも多々あります。定期的に家庭での過ごし方を振り返っていただき、やるべきことの優先順位を決めて取り組んでいけるよう保護者の皆様からの声かけをお願いしたく思います。

<イ>ICT利用に関わる工夫

GIGAスクール構想により1人1台タブレットが導入され、丸2年が経過しました。教職員は試行錯誤しながら、授業での効果的な使い方の研究を進めてきました。児童生徒も上手に使いこなすようになり、今後はなくてはならない学習のツールになっていくでしょう。引き続き、学習に関わる効果的・効率的な使い方を研究していきますが、児童生徒が正しく、意味のある使い方ができるよう支援していくことも必要です。保護者の皆様のご理解とご協力が不可欠になります。家庭でのスマホやタブレットの利用については、「使ってはいけない」のではなく、うまく付き合ってい

くための方法を考えられるようにアドバイスをお願いいたします。

【5】結び・おわりに

今年度の結果としましては、全国平均と比較するとおおむね良好ととらえることができるものの、県平均と比較するとほとんどの教科が同程度で、中学校国語では県平均よりやや低いという結果でした。結果の良い悪いだけで、児童生徒のがんばりを評価することはできませんが、勝山市全体として、今回の結果とこれまでの取組を振り返ることで、今後の児童生徒の主体的な学びに向かう姿勢につなげていきたいと考えます。質問紙調査からもわかるように、自分と違う意見と比べて、どのように深めていくかを考えることが楽しいと感じる生徒や自分で立てた課題の解決に向かっていける生徒が増えていくことが、学力の向上には欠かせないことです。今後も、児童生徒が、society5.0において求められる力である、文章や情報を正確に読み解き対話する力、科学的に思考・吟味し活用する力、価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探究力を身に付けるための支援に尽力します。

この全国学力・学習状況調査では、学校教育の成果の一部を調査したに過ぎませんが、これからの社会を生き抜くための力を育成するためには、小中学生の間に主体的に学びに向かう力を付けていくことが重要になります。そうした観点から、この調査の結果を踏まえ、今後さらに効果的な学習の進め方を研究し、一層の学力向上に努力してまいります。

保護者の皆様をはじめ市民の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。